

Plan

Do

Check

Action

	プラン：3月：	プランの改訂（4月・9月）	プランの評価・改善（1月）
小中一貫（連携）教育推進地区における取組	<p>★基礎的・基本的な学力の定着を目指した取り組み</p> <p>○小学校間、及び小・中学校間での研究授業、文化的行事の参観を通し、発達段階に応じた指導と進学後の成果と課題を把握し、小山スタンダードを充実させ、9年間を見通した指導の充実を図る。</p> <p>○年度当初の保護者会、授業ガイダンス等で指導計画、評価規準・方法をわかりやすく説明する。児童・生徒の学習状況の変化を家庭と共有し、学習意欲の向上、及び家庭学習の充実を図る。内容が理解され、浸透しているかを家庭訪問等の機会に確認する。</p> <p>○小中連携連絡会における主題を明らかにし、参観、及び協議会の視点を全教員が明確にもち、内容の充実を図る。</p> <p>○協同的探究学習を取り入れた指導の実践、話し合い、発表を通して学力の向上を図る。</p> <p>○定期的な振り返り学習に取り組み、基礎的・基本的な学力の定着を図る。</p> <p>○朝読書の活動を積み重ね、読書の習慣を身に付けさせる。</p> <p>○小山きょうみランド（小山小）及びサマースクール（小山中央小）における中学生の活動の場を設定する。</p> <p>★児童・生徒に社会性、人間性を身に付けさせる取り組み（児童・生徒が人としての基礎・基本である基礎学力、社会性、人間性を身に付けることのできる学校を目指す。）</p> <p>○SNS学校ルール、挨拶・登下校時の歩道の歩き方など、小中における決まりの検証・改善サイクルを確立し、9年間を見通した生活習慣の定着を図れるように、連携して取り組んでいく。</p> <p>○リトルティーチャーや部活動見学、生徒会訪問などで、中学生との交流活動を通し、児童が中学生にあこがれをもち、努力する気持ちを育む。また、中学生においては、小学生と交流する中で人間関係づくりの力や自己有用感を高める。</p> <p>○防災教育のあり方について様々な角度から連携が図れるよう弾力的に話し合う。基地局としての役割を明確にしていく。</p>	<p>☆プラン（3月）の内容は、全て継続実施していく。</p> <p>小山中学校区3校（小山中・小山小・小山中央小）の共通課題として今後も取り組む。</p> <p>☆プラン改訂事項</p> <p>★基礎的・基本的な学力の定着を目指した取り組み</p> <p>○町田市が推奨する「協同的探究学習」を取り入れた指導の実践、話し合い、発表を通して主体的に学ぶ力や学力の向上を図る。また成就感をもたせる。</p> <p>○思考力・表現力の育成のために、言語活動の充足を図る。</p> <p>○夏季休業中、放課後の補充学習を強化し、家庭学習の定着に向け、小中の連携をさらに進める。目標に達しない児童・生徒に対する補充学習はベーシックドリル等を活用する。</p> <p>小山きょうみランド（小山小）及びサマースクール（小山中央小）に中学生を派遣し、学習教室の充実を目指す。（小山きょうみランドについては、2017年7月～2018年1月まで中規模改修工事のため中止とする。）</p> <p>★生徒に社会性、人間性を身に付けさせる取り組み</p> <p>○研修会・部会を通じて各校の共通理解は進んでいる。さらなる発展のために、小中の課題について細部にわたりすりあわせができるよう各教科・教科外の部会を定期的に開催する。明確になってきた課題については、それぞれの部会で取り組み、三校連絡会において全体で情報を共有する。</p> <p>○部活動交流（見学のみ）夏季休業中に部活動の見学週間を設け、進学への関心を高め、中1ギャップの解消を図る。</p>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
国語	<p>【話す聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話形や話し合いの仕方などを提示することで意識付けをする。</li> <li>・主体的に自信をもって発表できるよう、ペアや小グループでの発表や協同的探究学習を取り入れたりしていく。話を聞く際にはよさや自分の考えとの共通点や相違点を見つけながら聞くよう指導する。</li> </ul> <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル文を示したり、ワークシートを活用したりすることで文章の書き方を定着させる。</li> <li>・作文や日記、感想文などを日常的に取り入れ書く機会を増やすことで書き方を定着させる。</li> </ul> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインを引くなどして読解方法を身に付けさせていく。苦手な児童には簡単な文章で要点を読み取らせるなど、スモールステップを設定して取り組ませる。</li> <li>・学年に応じた本の選び方を指導する。</li> </ul> <p>【知識理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びや読書を奨励したり、国語辞典の使用を習慣化することで語彙を増やしていく。</li> <li>・新出漢字の定着のため、繰り返しミニテストを行う。既習の語彙や漢字を定着させるため、教科を問わず既習の語彙や漢字を自分で直して書くように指導していく。</li> </ul>	<p>【話す聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話型や話し合いの仕方などを提示し、より良い話し方・話し合いの仕方を身に付けさせる。</li> <li>・主体的に自信をもって発表できるよう、ペアや小グループでの発表や協同的探究学習を取り入れたりしていく。話を聞く際には観点を示して相互評価させたり、友達の考えのよさや自分の考えとの共通点や相違点を見つけるよう指導する。</li> </ul> <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作文や日記、感想文など、日常的に書く機会を増やす。</li> <li>・モデル文やワークシートを活用し、文章の書き方を定着させる。</li> </ul> <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインを引くなどして要点を捉えさせたり、ふき出しなどを活用して内容理解を深めさせたりする。苦手な児童には簡単な文章で要点を読み取らせるなど、スモールステップを設定して取り組ませる。</li> <li>・学年に応じた本の選び方を指導する。</li> </ul> <p>【知識理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びや読書を奨励したり、国語辞典の使用を習慣化することで語彙を増やしていく。</li> <li>・新出漢字の定着のため、繰り返しミニテストを行う。めあてを立てると共に点数を記録し、自己評価させ意識付けをする。</li> <li>・既習の語彙や漢字を定着させるため、教科を問わず既習の語彙や漢字を自分で直して書くように指導していく。</li> </ul>	
算数	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意欲を喚起し、考えたい魅力的な題材にする。</li> <li>・習熟度別に教材・教具を工夫する。</li> </ul> <p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の読み取り方を指導する。</li> <li>・自力解決ができるように、習熟度に応じた手立てを準備する。</li> <li>・ペアタイムや小集団での話し合いを充実させていく。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算は、日頃から反復して取り組ませていく。表やグラフの表し方等、手順を確認しながら、定着させる。</li> </ul> <p>【知識理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリル等を活用し、児童の基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物を用いて、視覚的にもイメージしやすいようにする。</li> <li>○数直線図などを提示し、文章問題の内容を捉えやすくする。</li> <li>○解き方の共通理解を図ってから練習問題に取り組むことで、自身をもって取り組めるようにする。</li> <li>○児童の習熟度に応じて問題の数値を変更し、見通しをもたせられるようにする。</li> </ul> <p>【数学的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章問題を具体的な場面や絵に置き換えたり、図や数直線、グラフに表したりして、問題文の数量関係を理解しやすくする。</li> <li>○問題文の大事なところに線を引かせ、キーワード(「あわせて」「のこりは」等)を意識させる。また、見直しをしっかりと行わせる。</li> <li>○ノートに自分の考えを書き、思考を整理する時間を計画的に設ける。</li> <li>○協同的探究学習を取り入れた指導を実践する。話し合い、発表を通して、よい気付きや考え方を共有し、多様な考え方を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年では具体物を操作を多く取り入れ、数の合成・分解を身に付けさせる。</li> <li>○東京ベーシックドリルを活用し、計算力を高める。</li> <li>○コンパスや分度器等の教具を使用する際は、手元の様子がわかるように実物投影機や拡大掲示を活用する。</li> </ul> <p>【知識理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物の操作や絵や図を活用することで、実感を伴った理解を促す。</li> <li>○定期的に基礎的な問題を扱い、復習する。授業の導入の時間を活</li> </ul>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
理科	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験などの体験活動を積極的に取り入れ、意欲の向上を図ると共に実感を伴った理解につなげる。</li> <li>・観察や実験の視点を明確にし、児童に予想を十分にさせることで、その後の観察や実験を充実させる。</li> <li>・観察や実験を通し、問題解決への意欲を高める。</li> </ul> <p>【思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型学習(予想→方法→観察・実験→結果→考察)を繰り返し経験させる。</li> <li>・ノート指導やワークシートを活用し、実験結果と考察の違いを理解させながら表現できるよう指導する。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験器具に触れる機会を多くとり、実験のたびに器具の正しい使い方を確認する。</li> <li>・視点を明確にして、実験、観察、表現ができるように指導する。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最後に、学習したことと生活との関わりを関連づける時間を設ける。</li> <li>・東京ベーシックドリルを活用し、既習事項を確認させる。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の機会を多く設け、体験活動の充実を図ることで実感を伴った理解につなげるようにする。</li> </ul> <p>【思考表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型学習を繰り返し経験させ、理科的手順の定着を図る。</li> <li>・既習事項を基に考えさせる。</li> <li>・観察の視点を事前に明確に示す。また、以前の様子や複数のものと比較させ、類似点や相違点を考えさせる。</li> <li>・学年ごとにノートやワークシートの形式をそろえる。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顕微鏡など異学年で使用するものは、その都度使い方を確認し、正しい使い方を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【知識理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを、身の回りの現象と結びつけ、実感を伴った理解を促す。</li> <li>・単元の学習内容に応じて、映像資料を活用し、視覚的に分かりやすく事象を提示して理解を深める。</li> <li>・東京ベーシックドリルを活用し、既習事項を確認させる。</li> </ul>	
社会	<p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実物や写真、視覚に訴える資料を活用し、児童の興味・関心を高めていく。</li> </ol> <p>【資料活用】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①資料を読み取ったり、地図を活用したりする場面を計画的に取り入れる。 また、読み取りのポイントを押さえた指導を行う。</li> </ol> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①都道府県名や歴史上の人物名などの基礎的事項については、東京ベーシックドリル[社会]などを活用しながら、反復して取り組ませ、知識を定着させる。</li> </ol> <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習した内容から必要な情報を整理・分類し、新聞やレポート等に分かりやすくまとめる活動を学年の段階や実態に応じて計画的に設ける。</li> <li>②意見を交流させて表現方法なども身に付けさせていく。</li> </ol>	<p>【関心・意欲】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①導入で前時までに学習した内容を振り返ったり、資料の提示を工夫したりして、意欲的に課題に取り組めるようにする。</li> </ol> <p>【資料活用】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①資料の見方を丁寧に指導したり(地図帳や資料集を活用する機会を多くする)。</li> </ol> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①知識や概念の意味を理解させる学習を計画的に取り入れる。ベーシックドリルを活用して、都道府県名や歴史上の人物名等を身につけさせる。</li> <li>②資料や映像を活用して視覚的に理解できるような工夫をする。</li> </ol> <p>【思考・判断・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図や小見出し等の活用方法や、手本となる児童の作品を示したりしながら、新聞やレポート等に分かりやすくまとめる活動を計画的に設ける。</li> <li>②新聞作りや発表の場面を多く設け、相手を意識したまとめができるように</li> </ol>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
音楽	<p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現やリズム遊び、少人数活動等、学習形態を工夫して表現に対する意欲や意識を高める。</li> </ul> <p>【感受・工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同的探究学習の活動を通して多様な音楽表現に触れ、表現の幅を広げる。</li> </ul> <p>【表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとに習得すべき技能を絞り、スモールステップで学習できるようにする。</li> <li>・習熟の段階に合わせた学習の場を設け、個に応じた指導を行う。</li> </ul> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取ったことを言葉だけでなく、絵に描いて表したりする。</li> <li>・音楽的な語彙を増やすため、ヒントカードを掲示し、言葉による表現を豊かにする。</li> <li>・協同的探究学習を通して、多様な言語表現に触れる機会をつくる。</li> </ul>	<p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現やリズム遊び、少人数活動等、多様な学習形態による活動を通して、表現に対する意欲や意識を高める。</li> </ul> <p>【表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとに習得すべき技能を絞り、スモールステップで学習できるようにする。</li> <li>・技能の確実な定着を図るため、習熟の段階に合わせた学習の場を設定する。</li> <li>・計画的に学習進度を確認し、個に応じた指導を行う。</li> </ul> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽的な語彙を増やしたり、言葉による表現を豊かにしたりするため、引き続き協同的探究学習を行い、多くの言語表現に触れる機会をつくる。</li> </ul>	
美術 (図工)	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が意欲的に取り組めるような教材や技法を取り入れる。</li> </ul> <p>【発想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の思いや願いを込めて作品づくりができるような教材にする。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて前の学年で経験したものを繰り返し扱うことで技術の定着を図る。</li> <li>・さまざまな道具を扱うことで、表現の幅を広げられるようにする。</li> </ul> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品の鑑賞を通して、意見を伝え合い、考えや気付きを共有させる。</li> </ul>	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフやテーマを工夫し、児童が作品意欲的に作品づくりに取り組めるようにする。準備や授業中のルールを決めることで、授業規律を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【発想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げる教材を工夫することで、児童が想像力を発揮し表現の幅を広げていけるようにする。素材に触れる経験をたくさん取り入れることで発想力を伸ばす。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な用具の扱い方を的確に身に付けさせるために、前の学年で初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりする。</li> </ul> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の良いところについて話し合う機会を設定することで、作品を見る視点を養う。</li> </ul>	
技術・家庭	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物を工夫し、一人一人の児童に分かりやすい授業を心がけ、家庭生活への興味、関心をもたせる。</li> <li>・被服の学習は、布の色選びや素材の扱いやすさなど、児童が興味をもちやすいものを設定していく。</li> </ul> <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活をよりよく工夫したいと考えられるように、児童が家庭の仕事をする家庭実践カードを導入する。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習のポイントを掲示し、そのポイントを児童同士で互いに教え合ったり、見合ったりするなど協同的探究学習を取り入れ、基礎的・基本的な技能の定着を図る。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の要点をまとめたワークシートを使用し、生活をしていくための基礎的・基本的な知識を身に付けられるようにする。</li> <li>・グループ活動を取り入れ、教え合う学習を通して、互いに理解を深める。</li> </ul>	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提示の仕方を工夫する。それぞれの解決方法を考えさせることで自分の家庭生活に関心を持たせる。</li> </ul> <p>【創意・工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践カードに生活をよりよくするために工夫したことを書かせることでつぎへの課題を明確にし意識化する。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な技能の定着のために、安全な道具の使い方や手順を考えての作業などを繰り返し指導することで徹底する。</li> <li>・グループ活動の中で、児童同士の教え合いを活用したかめしていく。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物・板書・視聴覚機器などを工夫して使い理解を図る。</li> <li>・方法を理解させるだけでなく、その理由をともに考えて体験させ、実感の伴った理解をさせる。</li> </ul>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
体 育	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード、場、グルーピングなどの工夫により、苦手な児童でも意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・単元指導計画を学年で共有し、共通指導を行う。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標があることで、指導の際の目安とする。</li> <li>・友達と一緒に伝え合う活動を取り入れることにより、技能面が向上を図る。</li> <li>・基礎体力向上のための運動(体づくり運動)を充実させていく。</li> <li>・掲示物など、視覚的な資料をさらに充実させていく。</li> <li>・短なわ、長なわの取り組みは継続的に取り組んでいく。</li> <li>・スモールステップや帯での継続的な取り組みをすることによって、技能や体力の向上を図る。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードの工夫をすることで、めあてをもった活動につなげていく。</li> <li>・作戦を立てさせることで運動のポイントを考えさせる。</li> <li>・場や発問、言葉掛けを工夫することで、運動のポイントを意識した動きにつなげていく。</li> <li>・明確なめあてと視点をもたせ、課題解決に取り組んでいく。低・中・高の系統性を考えた年間指導計画を作成し実施する。</li> </ul>	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード、場、グルーピング、言葉掛けなどの工夫により、苦手な児童でも意欲的・主体的に取り組めるようにする。</li> <li>・体を動かす楽しさを実感させるため、運動が苦手な児童でも楽しめる簡単な運動を取り入れる。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標があることで、指導の際の目安とする。</li> <li>・友達と一緒に伝え合い教え合う活動を取り入れることにより、技能面が向上を図る。</li> <li>・基礎体力向上のための運動(体づくり運動)や業間体育を充実させていく。</li> <li>・短なわ、長なわの取り組みは継続的に取り組んでいく。</li> <li>・スモールステップや帯での継続的な取り組みをすることによって、技能や体力の向上を図る。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低・中・高の系統性を踏まえた指導を行う。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物や学習カードの工夫をすることで、明確なめあてをもった活動につなげていく。</li> <li>・場や発問、言葉掛けを工夫することで、運動のポイントを意識させ思考を促す。</li> <li>・明確なめあてと視点をもたせ、課題解決に取り組ませる。</li> </ul>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
生活・総合	<p>《生活》【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・单元によっては、行事や天候に左右されるため、早めに計画を進めていく。</li> </ul> <p>【思・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察カードをもとに友達と学び合える活動を計画していく。</li> <li>・季節や植物の単元は年間で一貫した計画を立て、変化を比べられるようにする。</li> </ul> <p>【気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えや思考を深めるための視点を明確にするワークシートや板書カードを使用する。</li> <li>・児童が、活動の前と後でどのように変容したのか自覚できるように、始めの思い、学習後の感想などを記録しておく。</li> </ul> <p>《総合的な学習の時間》</p> <p>【探究する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進め方を身に付けさせるために「課題の設定」「情報の収集」「整理分析」「まとめ、表現」という探究の過程を明確に提示し、児童が意識しながら学習を進められるようにする。</li> <li>・課題を探究しようとする児童の意欲と意識を高めるために、導入の仕方を工夫したり、体験活動を計画したりする。</li> <li>・共通体験をもとに、課題追究の方法を提示したり思考ツールを活用したりし、課題設定の力を培う。</li> </ul> <p>【関わる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協同して学ぶ場面を計画的に設け、友達の意見を生かし、より自分の考えを適切に伝えたり、深めたりできるように指導する。</li> <li>・地域の方との関わりを重視し、相手や場に応じて適切な態度で接することができるよう指導する。</li> </ul> <p>【他教科との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科での基礎・基本の学習をしっかりと積み重ね、関連を図る。</li> <li>・国語の授業と関連付けて、体験活動と言語活動をともに充実させる。(言語活動との関連)</li> </ul>	<p>《生活》</p> <p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を、意図的・計画的に行うことで、活動に主体的に取り組む力を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【思・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したことを友達と伝え合うような活動を多く取り入れる。表現があったときにはそれを認める。</li> </ul> <p>【気付き】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験した活動ごとに、カードを書いたり、発表させたりすることで、友達の気付いたことのよさを知り、次の活動において参考にさせる。</li> <li>・教師は、カードに気付いた項目を記号で示し、見たこと、大きさ、色だけでなく、触った感じや匂いなど、いろいろな視点で気付けるよう意識する。</li> </ul> <p>《総合的な学習の時間》</p> <p>【探究する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入では身近な題材から課題を提示し、児童の興味・関心を高め内発的動機を促す。</li> <li>・活動の計画を示し、見通しをもって計画的に活動できるように支援する。</li> <li>・図書資料、インタビューなど課題解決の方法を提示し、次第に児童が自分で解決方法を考えられるようにする。</li> </ul> <p>【関わる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた事柄と自分の生活を比較し、関連付けながら気付いたことを重視し、表現させる。</li> <li>・リーフレット、新聞、劇、ポスター、ペープサート、詩、替え歌などまとめ方の例をいくつか示し、自分達で選んで、分かりやすい表現方法を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【他教科との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科での基礎・基本の学習をしっかりと積み重ね、関連を図る。</li> <li>・国語の授業と関連付けて、体験活動と言語活動をともに充実させる。(言語活動との関連)</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に「考えたい」と思えるような導入、資料提示、発問の工夫をすることで、「考え、議論する」道徳科への転換を図り、児童の道徳性を育てていく。</li> <li>・ペアやグループで自分の考えを表出できるような話し合い活動の工夫をする。</li> <li>・展開後段の自分への振り返りを工夫する。児童に身近な資料を選ぶことで自己を見つめやすくしたり、児童の様々な体験や経験を想起させるような具体的な場面を提示したりすることで、道徳的価値に対する態度や心情を育て、実生活で生かせるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、児童が教材をとおして主体的に主題について考えることができるように、児童を引き付ける資料提示や発問の工夫をしていく。</li> <li>・また、登場人物に自己を関与させて考えたり、自己を振り返ったりしやすい児童にとって身近な教材や、多面的、多角的な見方ができ、議論しやすい教材など、それぞれの教材の特性を見極め、その上で話し合いのさせ方や自己を表出させるための工夫をしていく。</li> <li>・道徳の評価について見据え、児童の変容が見取れるようなワークシートの工夫をしていく。</li> </ul>	
特活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会の時間を意図的に確保し、学級会までの準備や進め方を指導する。</li> <li>・委員会活動やたてわり活動を計画的に実施する。特にたてわり活動は、活動回数を増やし活動に慣れさせるようにする。学校全体で6年生を指導し、集団の向上に寄与しようとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動年間指導計画をもとに、学級会を意図的・計画的に行う。議題の決め方や話し合いの進め方は発達段階に応じて指導する。</li> <li>・委員会活動やたてわり活動を計画的に実施する。特にたてわり活動は、全教職員の共通理解のもと、集団の向上に寄与しようとする6年生の態度を育てたり、6年生への感謝の気持ちをもって1～5年生が参加したりできるよう、指導する。</li> </ul>	

	プラン(3月)	プランの改訂(4月・9月)	プランの評価・改善(1月)
家庭学習の充実を図るための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語、算数を中心に既習事項の復習、単元の習熟を図る内容の課題や反復練習ができるような課題を毎日出し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。</li> <li>○各家庭と連携を図り、宿題のチェックやコメントの記入をお願いし、成果を家庭と学校で確認する。</li> <li>○家庭学習の定着の様子について、学校と家庭が連携して取り組めるような振り返りを学期末に行う。</li> <li>○町田市教育委員会の「家庭学習の手引き」リーフレットを活用して家庭での取組について啓発し、学習の連続性を図る。</li> <li>○東京ベーシックドリルを活用し、<b>それぞれの児童の基礎的・基本的な内容の定着状況</b>に応じた課題になるようにする。</li> </ul>		